

	大阪大学 医学系分野
学部・研究科名	医学部（第1年次：100 第2年次：10） 医学系研究科（M：20 D：172） 微生物病研究所 蛋白質研究所
沿革・設置目的	<p>蘭学者緒方洪庵が開いた「適塾」の流れを汲み、大阪仮病院（翌年大阪府病院及び大阪医学校）に始まり、医学に関する教育・研究を行うことを目的として、大阪医科大学、大阪帝国大学医学部を経て、昭和22年（1947年）大阪大学医学部に改称し、昭和24年（1949年）に新制大阪大学医学部として設置された。</p> <p>昭和9年（1934年） 微生物病研究所設置 昭和24年（1949年） 新制大阪大学設置 <u>昭和24年（1949年） 新制大阪大学医学部設置</u> 昭和30年（1955年） 大学院医学研究科設置 昭和31年（1956年） たんぱく質研究施設設置（平成16年（2004年）に蛋白質研究所に改組） 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行 平成22年（2010年） 微生物病研究所及び蛋白質研究所が共同利用・共同研究拠点に認定</p>
強みや特色などの役割	<p>○ 大阪大学の理念等に基づき、世界の医学・医療をリードし、先進医療の開発に取り組む創造性豊かな医師・医学研究者の養成を積極的に推進する。特に、大学の戦略的な取組に基づく免疫学、神経科学及び再生医学を融合させた大学院教育プログラム、国内外の企業や医療・研究機関、他大学との連合等により、深い専門性と多様性を持つグローバルな人材を輩出する。</p> <p>○ 基礎医学、臨床医学の各領域における研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指す。特に、免疫学研究や再生医療の実用化に向けた研究において世界のトップを目指す最先端研究開発を遂行するとともに、病原微生物による感染症や、蛋白質の構造・機能・データベースに関する共同利用・共同研究等により生命科学の新たな研究領域を開拓する。大学を挙げて戦略的な創薬研究への取組を強力に推進する。</p> <p>○ 北大阪バイオクラスターの産学官連携機能を活かし、橋渡し研究支援</p>

拠点として、基礎研究成果の臨床への橋渡しを強力に支援することにより研究成果の実用化を推進するとともに、脳・心血管領域における未だ有効な治療方法がない医療ニーズに対応する創薬を目指す早期・探索的臨床試験拠点として、世界に先駆ける臨床試験を強力に推進し、革新的な医薬品・医療機器を創出し日本発のイノベーションを目指す。

- 国内における実施例数の4割を占める実績を有する脳死臓器移植手術をはじめとする、高度・先進的な医療を積極的に展開する。
- 特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター等としての取組を通じて、大阪府における地域医療の中核的役割を担う。